

traP内の特有の言語はどれほどの影響力を持つか: 東工大内外での差を考える 岩渕巧知

はじめに

特定の言葉や流行している言語の言い回しは方言などが例に挙げられるがそれが日本全国で流行することがある。一部の地域でしか使われていない言葉がその地域以外に多く広まった例として東工大内でも大きな影響力を持つtraPを題材にどのくらいの人数がいればその言語が一般的な言葉としての影響力を持つかについて調べる。 宍戸 彩花の研究では方言の流行についての研究があり、「それな」という言葉についてのを調査していた。今回の調査を行うことによって方言の広まり方の特徴についての新たな知見を得られるだろう。

方言にはいくつかの意味があるが、早野慎吾は場面差がある言語という意味としての定義があると述べている。これを採用すると、東工大のサークルtraP、内での特有な言語も方言ととらえることができる。「東工大内では東工大外と比較してtraPの特有な言語が一般的な言葉として浸透している」という仮説を立てて東工大内外での方言の広まりを考える。

方法

Google Formを用いて東工大に所属しているかどうか、traPに所属しているかどうか、traP内で使われる言葉の実用例以下のように示した、質問形式は宍戸 彩花の研究を参考にした。 「いい話」という言葉についてです A「課題出し終わった！」 B「いい話」 「おいすー」という言葉についてです ・・・・人と会ったとき A「おいすー」 B「おいすー」 「ぶろ」または「プロ」という言葉について ・・・・投稿された創作物、仕事に対してのスタンプぶろ 知っていて使用している、知っているが使用していない、知らないを聞くインタビュー調査を行った。

結果

まずtraPに所属して活動に参加している人の結果を見ると全員がすべての言葉に対して知っていて使ったことがあると答えている。さらにすべての言語で東工大の学生∧traP非アクティブ、東工大の学生∧traP未所属者、東工大に所属していないの順でその言語を知らない割合が増えていく。

結論：traP内の特有の言語（いい話、ぶろ、おいすー）は東工大内では東工大外と比べて一般的な言葉となっている

表 1， traPの所属有無、活動参加の有無、東工大所属の有無よっての「いい話」という言葉の認知

	東工大の学生 ∧traPアクティブ	東工大の学生 ∧traP非アクティブ	東工大の学生 ∧traP未所属者	東工大に所属していない
知っていて、使ったことがある	5	3	3	0
知っているが使ったことはない	0	0	3	1
知らない	0	4	12	12

表3， traPの所属有無、活動参加の有無、東工大所属の有無よっての「ぶろ」という言葉の認知

	東工大の学生 ∧traPアクティブ	東工大の学生 ∧traP非アクティブ	東工大の学生 ∧traP未所属者	東工大に所属していない
知っていて、使ったことがある	5	2	1	1
知っているが使ったことはない	0	3	3	1
知らない	0	2	14	11

表2， traPの所属有無、活動参加の有無、東工大所属の有無よっての「おいすー」という言葉の認知

	東工大の学生 ∧traPアクティブ	東工大の学生 ∧traP非アクティブ	東工大の学生 ∧traP未所属者	東工大に所属していない
知っていて、使ったことがある	5	1	3	0
知っているが使ったことはない	0	4	6	5
知らない	0	2	9	8

考察

結果でも述べた通り、さらにすべての言語で東工大の学生∧traP非アクティブ、東工大の学生∧traP未所属者、東工大に所属していないの順でその言語を知らない割合が増えていく。これはtraPの人間がまわりにどれだけいてその影響を受けるほどその言語に慣れ親しんでいるということがわかる。このことから、とある方言のあるコミュニティで暮らすとその方言が移りやすいということも推測できる。 小林隆曰く、若者たちの間では心情を表すものが共通語に取り込まれ心理的效果を発揮するアクセサリー化しているとしている。これらの言葉も日常会話に取り入れやすかったがゆえに広まりやすく、アクセサリー化しやすいともいえるのだろう。 さらに「おいすー」は一般的に知られている挨拶でもあるのでその言葉を知っている人が他の二つの言語より位多かったのだろうと考えられる。「いい話」は日常会話で使いやすい言葉であるというもあり、使ったことがある人が他の二つの言葉よりも大きいのだろう。 今回の調査では、比較的多い調査数をとれたと考えたが、調査者を属性で4つに分けたため、一部の属性では人数が少なくなり正確性が怪しくなってしまった。属性ごとに調査者を分ける場合はもう少し調査数を多くとるのがよいと思った。

おわりに

traP内の特有の言語は東工大内では東工大外と比べて一般的な言葉となっていて、traPに所属している人間と関わる機会が多いほどその言語を通じる人、使う人がが多くなる。

文献

早野慎吾,国語科教育における地域言語教育(1)-方言・標準語・共通語-,宮崎大学教育文化学部紀要教育科学,第16号,2007年,137~152頁. 宍戸 彩花,若年層流行語「それな」の方言性と使用実態, 卒業論文 指導教員：日高水穂 ,平成 26 年. 小林隆,アクセサリーとしての現代方言,社会言語科学,第 7 巻 第 1 号, 2004年 9 月, 105・107 頁.